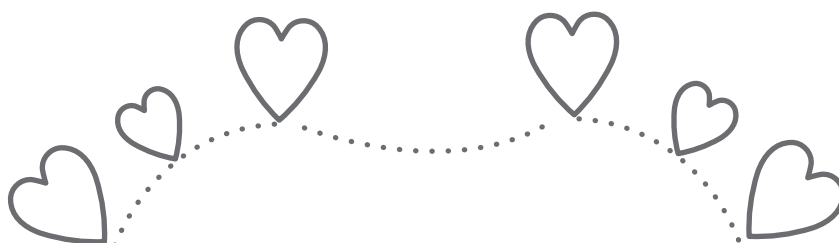
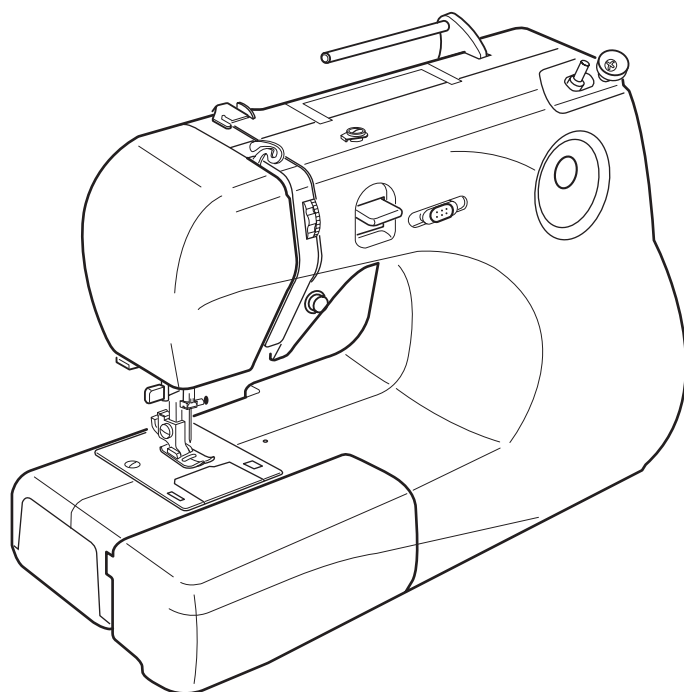




# 取扱説明書












**JANOME**






## 安全上のご注意














- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 <b>警告</b> この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 <b>注意</b> この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	---

本文中の図記号の意味	 △記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	 ⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	 ●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 <b>警告</b> 感電・火災の原因となります。
 <b>禁止</b> ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は5℃～35℃です。
 <b>禁止</b> スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
電源コードについて、以下の行為は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 傷つける</li> <li>● 加工する</li> <li>● はさみ込む</li> <li>● たばねる</li> <li>● 引っ張る</li> <li>● 無理に曲げたり、ねじったりする</li> <li>● 重い物をのせる</li> <li>● 高温部に近づける</li> </ul> 電源コードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 <b>必ず実行</b> 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
 <b>必ず実行</b> 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミシンのそばをはなれるとき</li> <li>● ミシンを使用したあと</li> <li>● ミシン使用中に停電したとき</li> </ul>

 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因となります。
 <b>分解禁止</b> 分解はしないでください。
 <b>接触禁止</b> ミシンの操作中は、針から目をはなさないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 <b>禁止</b> 曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
 <b>禁止</b> ミシンの通風口はふさがらないでください。

 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因となります。
 <b>禁止</b> 電源コードの上に、物をのせないでください。
 <b>禁止</b> むい途中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
 <b>禁止</b> このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
 <b>注意</b> お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 <b>必ず実行</b> ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
 <b>必ず実行</b> ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。
 <b>必ず実行</b> プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 <b>必ず実行</b> 針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 <b>必ず実行</b> 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 <b>必ず実行</b> 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 押さえ、アタッチメントを交換するとき</li> <li>● 上糸、下糸をセットするとき</li> </ul>
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ランプを交換するとき (ランプが冷えてから行ってください。)</li> <li>● ミシンのお手入れを行うとき</li> <li>● 針、針板を交換するとき</li> </ul>
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常に作動しないとき</li> <li>● 水にぬれたとき</li> <li>● 落下などにより破損したとき</li> <li>● 異常な臭い・音がするとき</li> <li>● 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき</li> </ul>

## 目 次

◎ お取り扱いについてのお願い.....	1	◎ 実用ぬい.....	11 ~ 13
◎ 各部のなまえ.....	2	● 直線ぬい.....	11
◎ 標準付属品.....	2	★ぬい始め.....	11
◎ 基本操作.....	2 ~ 10	★ぬい方向の変更.....	11
● フリーアーム.....	2	★ぬい終わり.....	11
● 電源のつなぎ.....	3	★針板ガイドラインの利用.....	11
● スタート/ストップボタン.....	3	● ジグザグぬい.....	11
● スピードの調節.....	3	● ジグザグぬいのたち目かがり.....	12
● 返しぬいレバー.....	3	● トリコットぬいたち目かがり.....	12
● 模様を選び方.....	3	● シェルタック.....	12
★模様一覧.....	3	● まつりぬい.....	12
● 押さえの交換.....	4	● ボタンホール.....	13
● 押さえホルダーの外し方・付け方.....	4	★芯入りボタンホール.....	13
● 押さえ上げ.....	4	◎ ミシンのお手入れ.....	14 ~ 16
● 針の取り扱い.....	5	● かまと送り歯の掃除.....	14
★針の取りかえ方.....	5	● 内がまと針板の組み付け.....	14
★布に適した糸や針を選ぶ目安.....	5	● ランプの交換.....	14
● 下糸の準備.....	6 ~ 7	● ミシンの調子が悪いときの直し方.....	15 ~ 16
★ボビンの取り出し.....	6		
★糸こまのセット.....	6		
★ボビンに糸を巻く.....	6 ~ 7		
★ボビンのセット.....	7		
● 上糸の準備.....	8 ~ 9		
★上糸のかけ方.....	8		
★糸通しレバーの使い方.....	9		
★下糸の引き上げ方.....	9		
● 糸調子の調節.....	10		

### ◎ お取り扱いについてのお願い

#### ◇ ご使用の前に

- (1) ぬう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。  
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。
- (2) シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

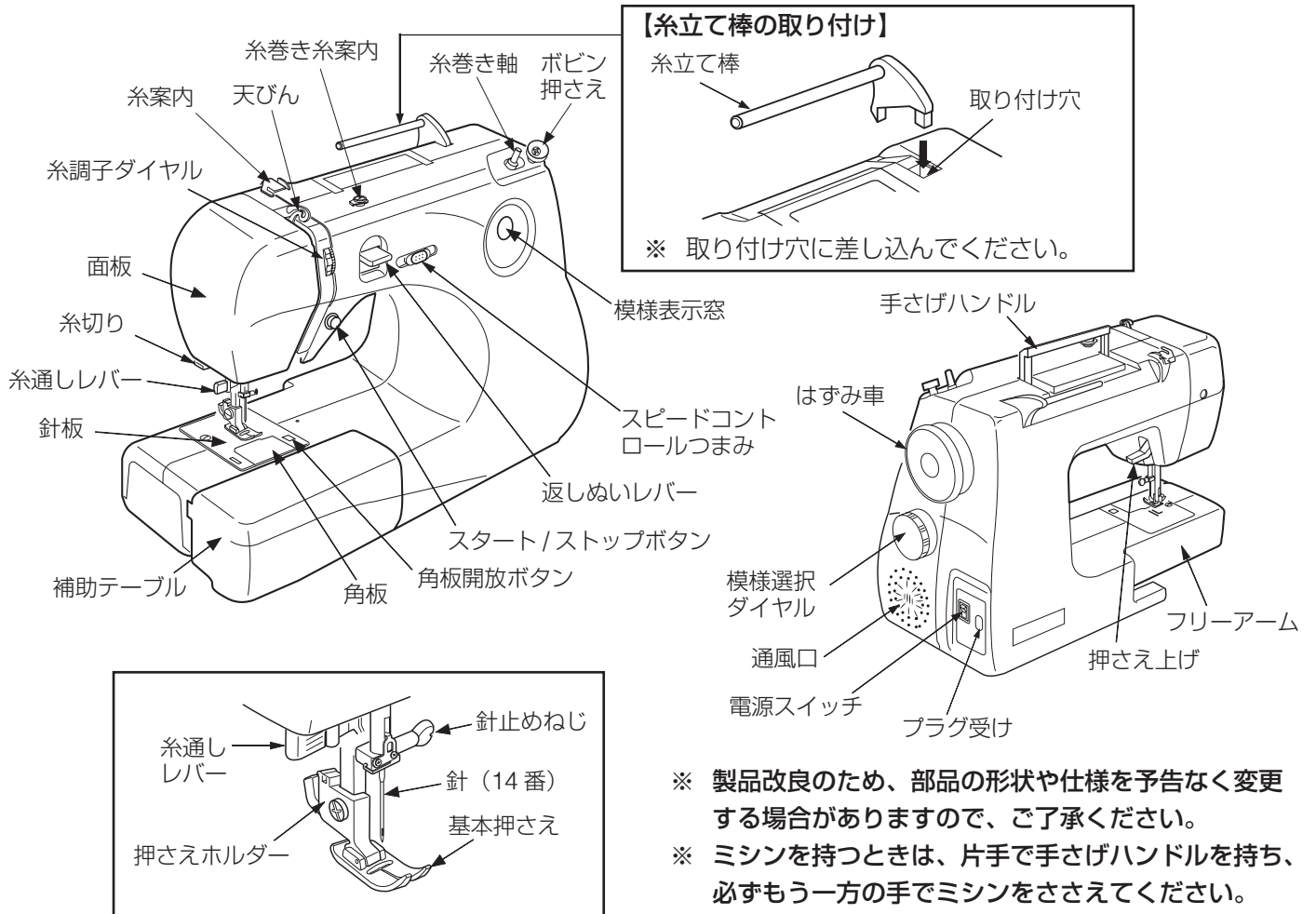
#### ◇ いつまでもご愛用いただくために

- (1) 長時間日光に当てないでください。
- (2) 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- (3) 落としたり、ぶついたりするなど衝撃を与えないでください。  
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

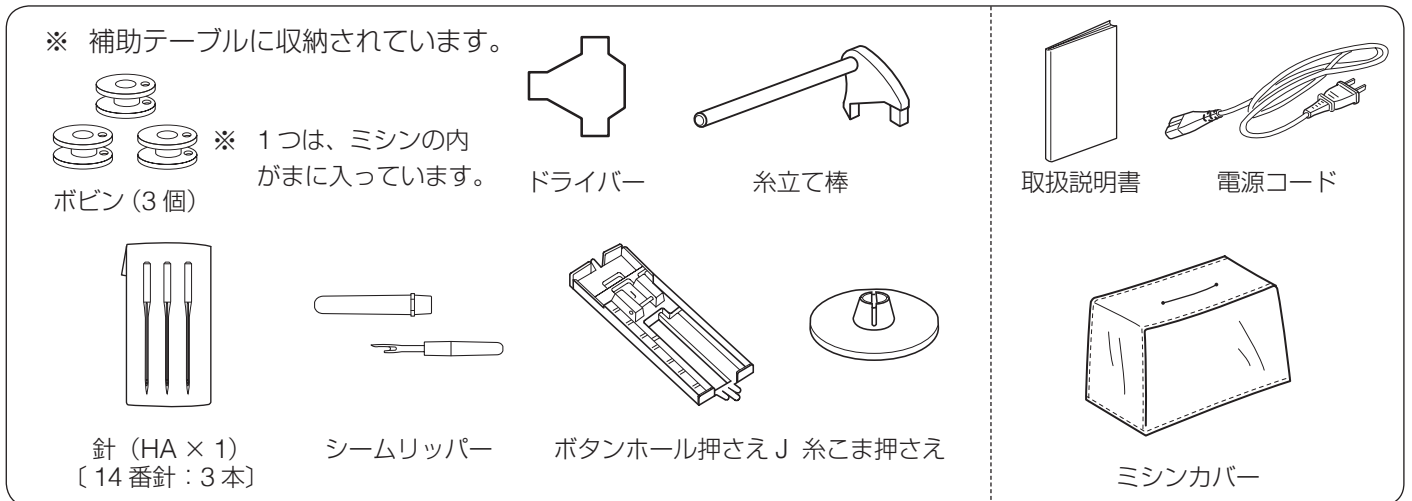
#### ◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたりしたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(15 ~ 16 ページ) によって点検・調整を行ってください。

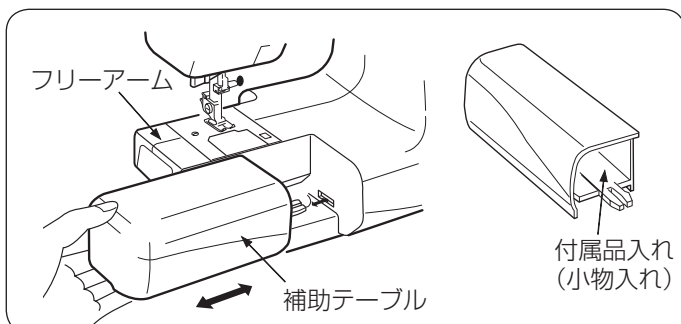
## ◎ 各部のなまえ



## ◎ 標準付属品



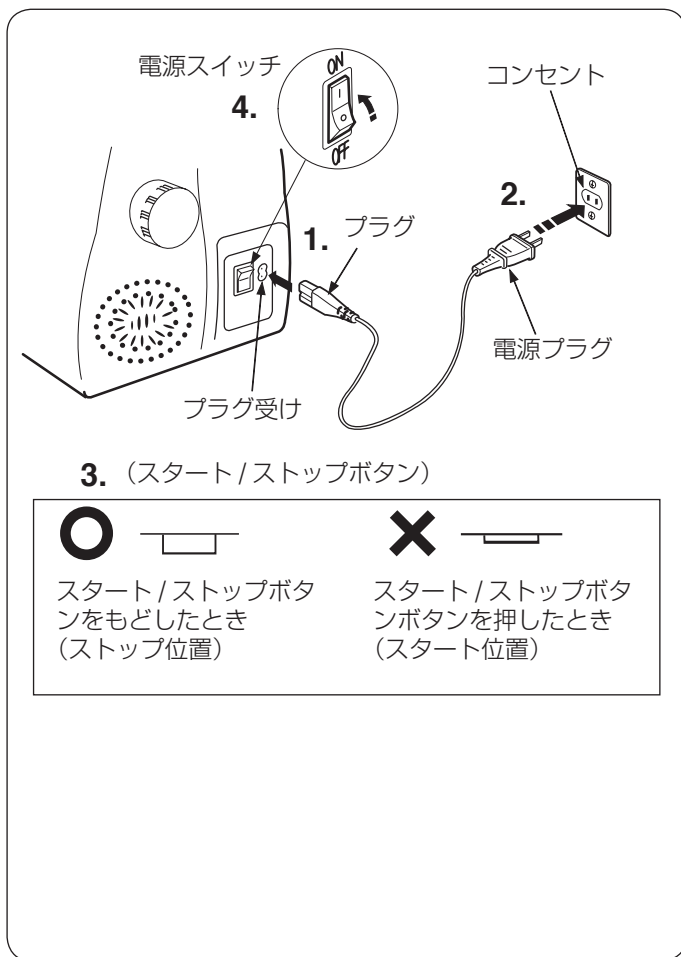
## ◎ 基本操作



### ● フリーアーム

補助テーブルを横に引いて外すと、フリーアームになります。そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

補助テーブルは、小物入れとしても利用できます。



## ● 電源のつなぎ

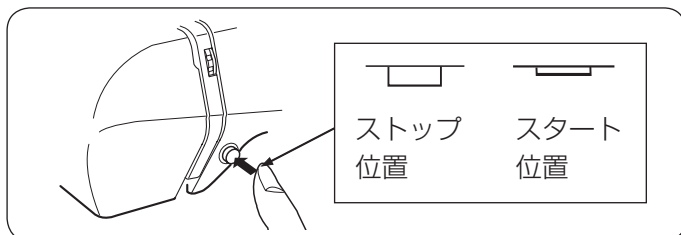


### 警告

- 電源スイッチを「ON」(入) にするとき、および電源プラグをつなぐときは、必ずスタート/ストップボタンを「ストップ」の位置にしてください。スタート/ストップボタンが「スタート」の位置で電源スイッチが「ON」(入) になっている場合は、電源プラグをつなぐと同時にミシンが動きだし危険です。
- 電源は、一般家庭用交流電源 100 V で使用してください。ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると、湿気などにより絶縁不良となり火災の原因となります。

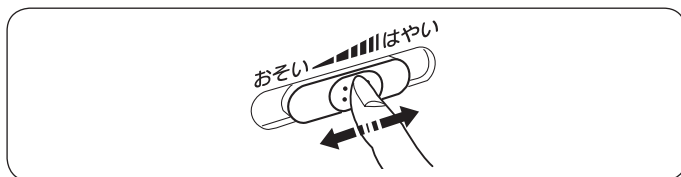
※ 必ず付属の電源コードを使用してください。

1. 電源スイッチを「OFF」(切) にしてから、プラグをプラグ受けに差し込みます。
2. 電源プラグをコンセントに差し込みます。
3. スタート/ストップボタンが「ストップ」の位置にあることを確認します。
4. 電源スイッチを「ON」(入) にします。



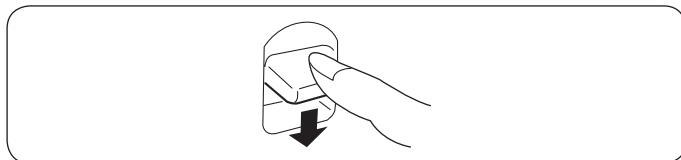
## ● スタート/ストップボタン

ボタンを押すと、スピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。



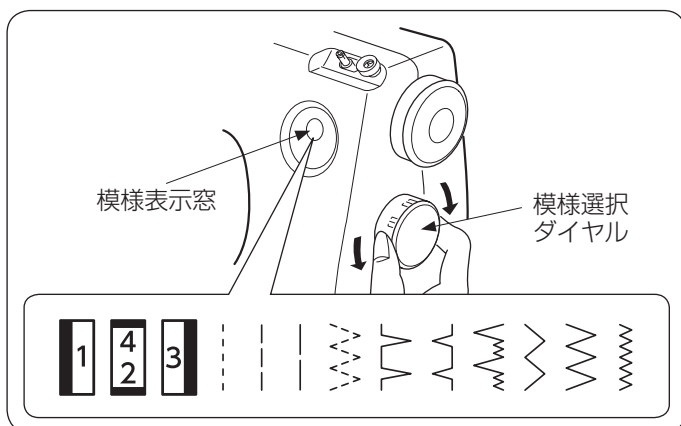
## ● スピードの調節

ぬう速さは、スピードコントロールつまみで調節します。スピードコントロールつまみの位置が右側になるほど速くなります。



## ● 返しぬいレバー

ミシンを運転中、レバーを押しているあいだは返しぬいをし、はなすと前進ぬいになります。ぬい目のほつれ止めなどに利用します。



## ● 模様の選び方

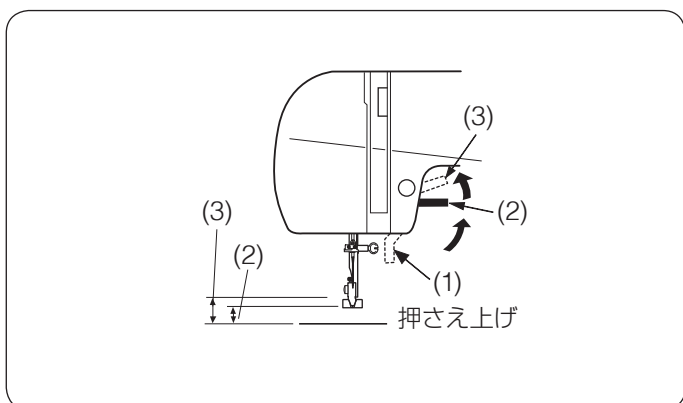
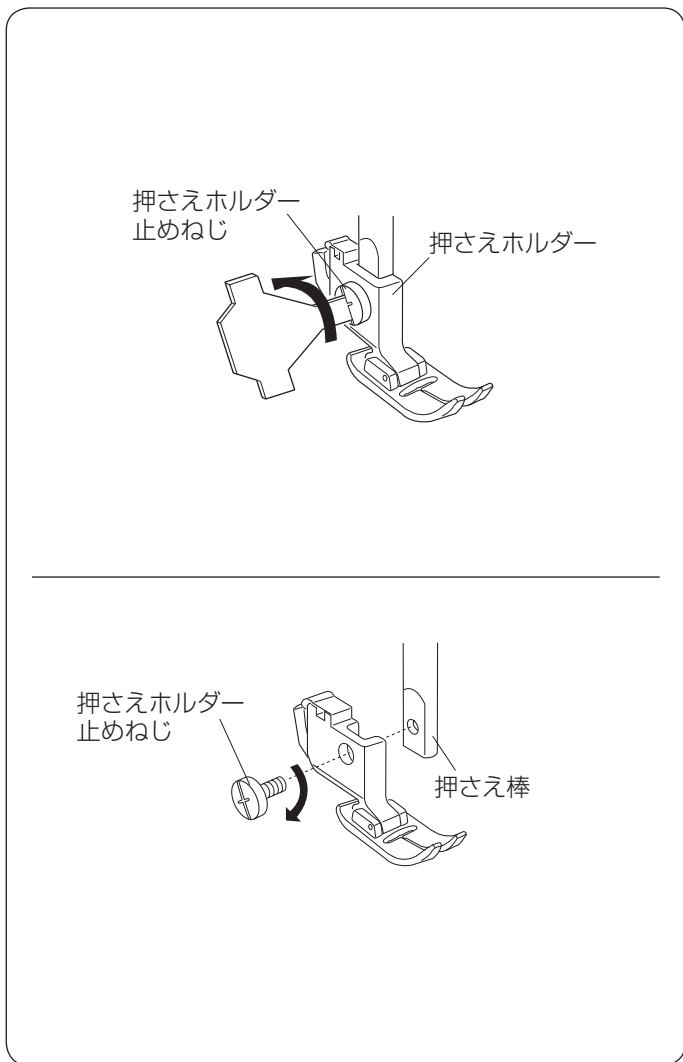
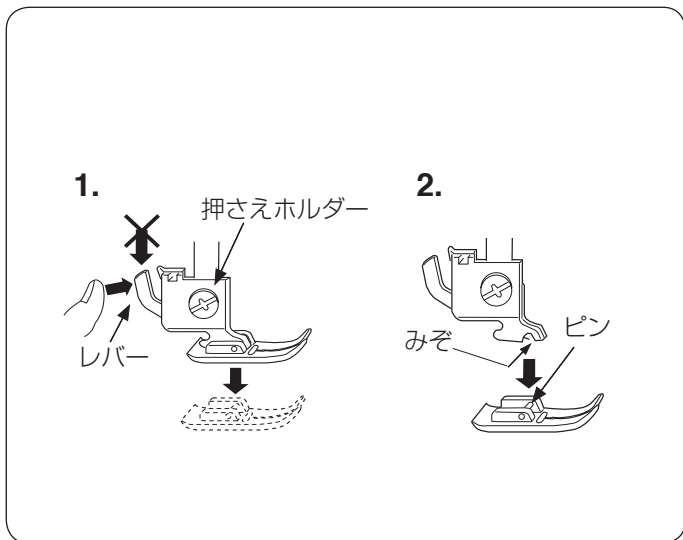
はずみ車を手で手前にまわして針をあげます。

模様選択ダイヤルをまわして模様を選びます。模様表示窓に選んだ模様が表示されます。

※ 針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

## ★ 模様一覧

模様の一覧は、ミシン本体の正面に表示されています。



## ● 押さえの交換

### ⚠ 注意

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- 押さえは模様にあったものを使用してください。押さえが合っていないと針が押さえに当たり、けがの原因となります。

1. 押さえ上げをあげ（下記「●押さえ上げ」参照）、押さえホルダーのレバーを押して外します。
- ※ レバーを上から押すと故障の原因となります。
2. 押さへのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

## ● 押さえホルダーの外し方・付け方

### ⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

#### 【押さえホルダーの外し方】

1. はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
2. ドライバーで押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

#### 【押さえホルダーの付け方】

※ 押さえホルダーは、押さえが付いた状態で取り付けてください。押さえが付いていないと正常な取り付けができません。

1. 押さえ上げをあげます。
2. 押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじを軽くしめ、押さえホルダーを仮止めておきます。
3. 押さえ上げをさげ、押さえホルダー止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえホルダー止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

## ● 押さえ上げ

押さえ上げで押さへのあげ下げをします。

押さえを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。

- (1) さげた位置：  
ぬいときにはさげておきます。
- (2) 普通にあげた位置：  
布の取り出しや、押さへの交換のときにあげます。
- (3) さらにあげた位置（固定はできません。）：  
厚い布を入れるときなどに、布が入れやすくなります。



## ● 針の取り扱い

### ★ 針の取りかえ方



**注意**

針を交換するときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。

はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。

#### 【針の外し方】

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。

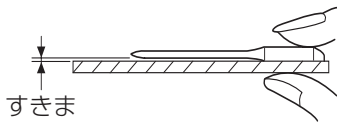
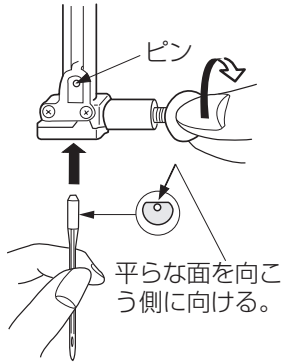
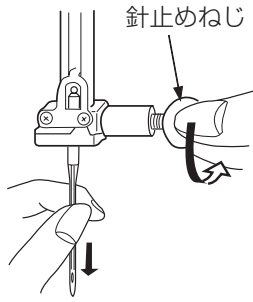
#### 【針の付け方】

交換する針の平らな面を向こう側に向け、針をピンに当たるところまで差し込みます。針止めねじを向こう側にまわし、針をしっかり止めます。

※ 針が正しく付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

#### 【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのがよい針です。針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わないでください。



### ★ 布に適した糸や針を選ぶ目安

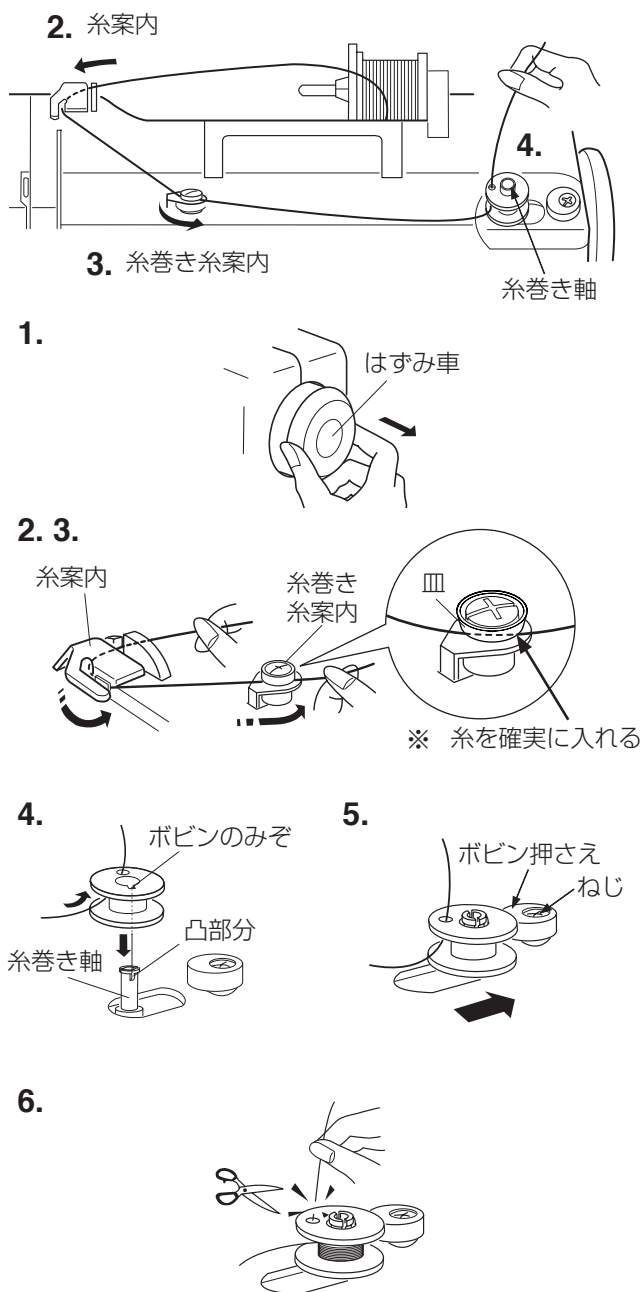
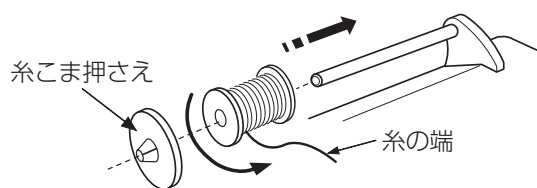
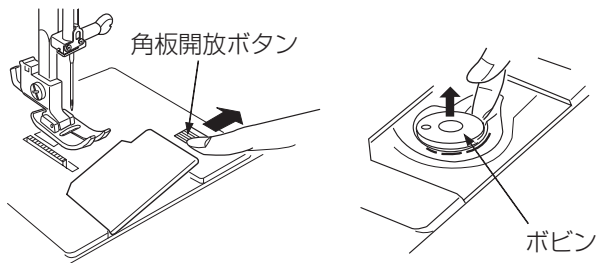
※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番 または ブルー針 (オプション)
		綿糸 60 番 ポリエステル、ナイ ロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 ブルー針 (オプション)
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 50 番	14 番
		綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番 ～ 50 番	14 番～ 16 番
厚い布	デニム ツイード コート地	ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコットなど）や目とびしやすい布地には、ブルー針（11 番、オプション）を使用すると、目とびの防止効果があります。



## ● 下糸の準備

### ★ ボビンの取り出し

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

#### お願い

- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)
- ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。
- 金属ボビンは使用しないでください。かまにマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

### ★ 糸こまのセット

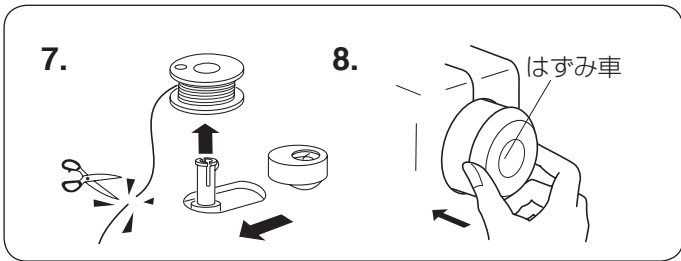
糸の端が下から手前になるようにして、糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

### ★ ボビンに糸を巻く

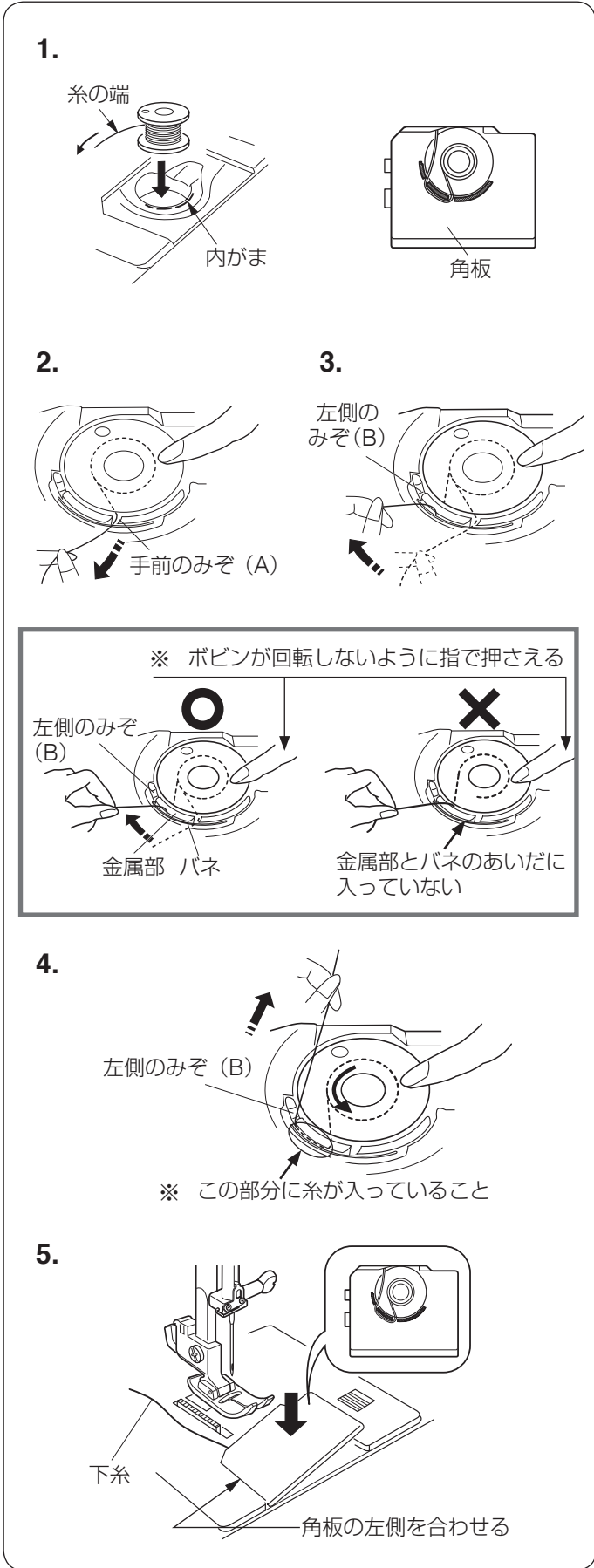
※ スピードコントロールつまみは、「はやい」にセットしてください。

1. はずみ車を引き出します。
2. 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、糸案内にかけます。
3. 糸巻き糸案内にかけます。  
※ 糸を確実に皿の下に入れてください。糸が皿の下に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。
4. ボビンの穴に内側から糸を通します。糸巻き軸の凸部分とボビンのみぞが合うように、糸巻き軸にボビンを差し込みます。
5. ボビンをボビン押さえの方に押し付けます。  
※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。
6. 糸の端をつまんだままミシンをスタートしてボビンに糸を約3秒間巻きつけたら、ミシンを止めます。つまんでいる糸をボビンの近くで切ります。





7. 再びスタートして、巻き終わったらミシンを止めます。糸を切って糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸から外します。
- ※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてからもどしてください。
8. はずみ車を元の位置（押し込む）にもどします。

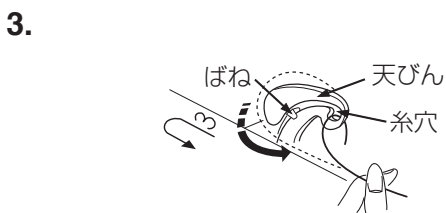
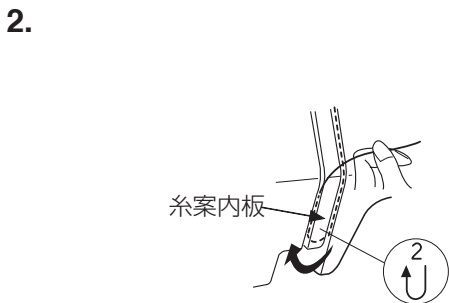
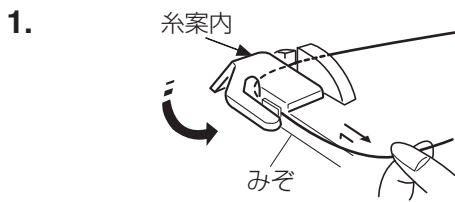
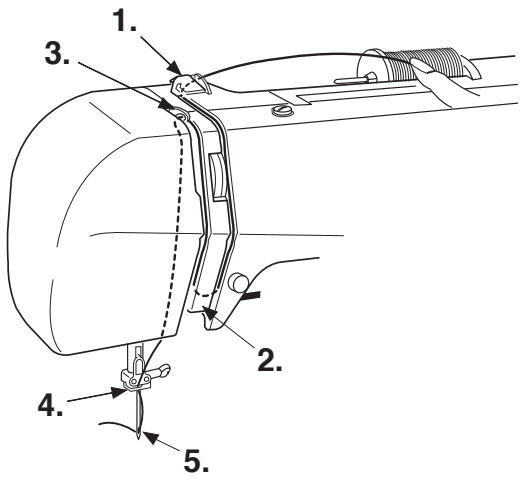


★ ボビンのセット

**⚠ 注意**

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

1. 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向け（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。
- ※ ボビンから引き出される糸の図が、角板に表示されています。
2. ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ (A) にかかけます。
- ※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順 4. が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。
3. 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ (B) のところに出します。
- ※ 手順 2. で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかっていない場合、内がまのバネと金属のあいだに糸が入りません。その場合は手順 1. からかけ直します。
- ※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。
4. 糸を左側のみぞ (B) にかけるように向こう側に出します。
- ※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上逆に入れかえます。
5. 下糸を約 10 cm 引き出し、角板を左側から合わせて付けます。



● 上糸の準備

★ 上糸のかけ方

※ はじめに、下記の準備を必ず行ってください。  
ぬい不良の原因になります。

**【準備】**

1. 押さえ上げをあげます。
2. はずみ車を手で手前にまわし、針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを切ります。

**⚠ 注意**

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

- ※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、ぬい不良の原因となります。
- ※ 各部に糸を確実にかけるため、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。
- ※ 糸こまのセット方法は、6ページの「★糸こまのセット」をごらんください。
- ※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

1. 押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出します。  
糸を軽く押さえながら、糸案内の下にかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。
  2. 糸を糸案内板の下をまわし、右から左にかけ上に引きあげます。
  3. 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。
- ※ 糸がばねを通過し、天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。

4. 針棒糸かけに左からかけます。
5. 糸通しレバーを使って針に糸を通します。  
(次ページ参照)

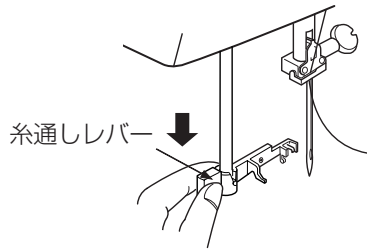
★ 糸通しレバーの使い方

**⚠ 注意**

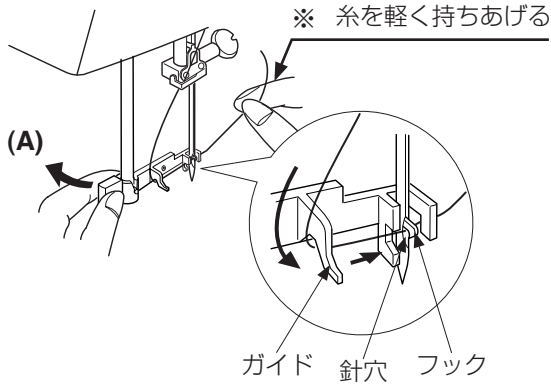
糸通しレバーを使うときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

- ※ 針は家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番～ 16 番、糸は 50 番～ 90 番が使用できます。
- 1. はずみ車を手で手前にまわし、針をいちばん上にあげた状態で、押さえ上げをさげます。  
糸通しレバーを止まるまで引きさげて保持します。
- 2. 糸通しレバーを矢印方向 (A) へまわしてフックを針穴に入れます。  
糸をガイドとフックにかけます。
- ※ 右手に持っている糸は、ガイドとフックのあいだの糸がたるまない程度に軽く持ちあげてください。
- 3. 糸通しレバーを矢印方向 (B) へまわし、糸が輪になって出てきたら糸通しレバーを押しあげて糸の輪を引きあげます。
- 4. 糸の輪をフックからはずし、針穴から糸端を引き出します。

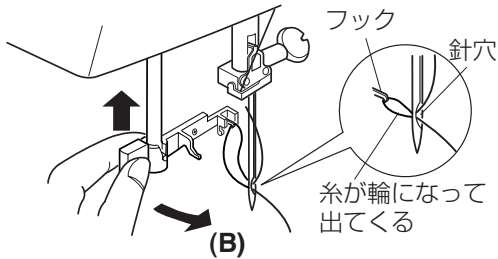
1.



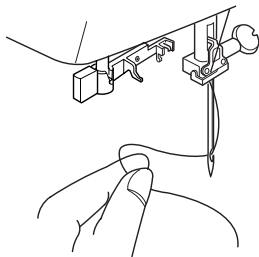
2.



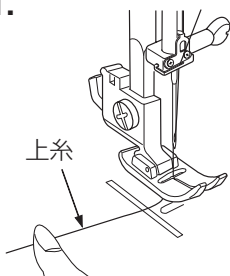
3.



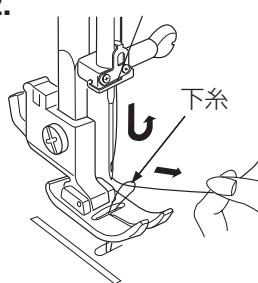
4.



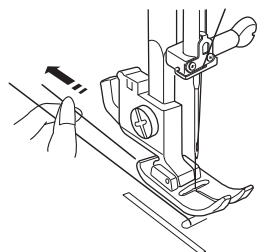
1.



2.



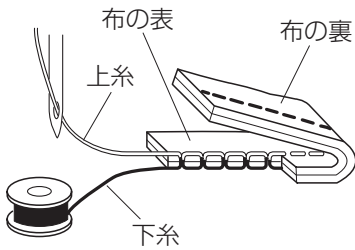
3.



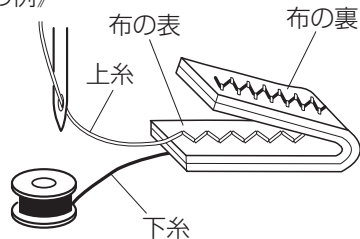
★ 下糸の引き上げ方

- 1. 押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。
- 2. はずみ車を手で一回転させ、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。
- 3. 上糸と下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて約 10 cm 引き出します。

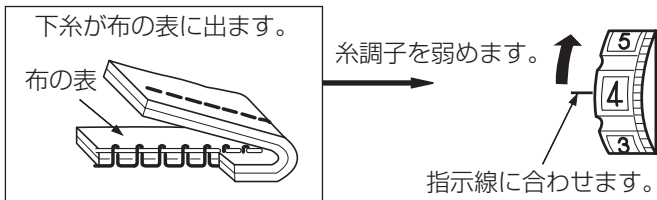
《直線ぬいの例》



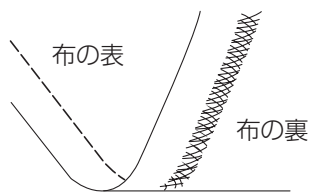
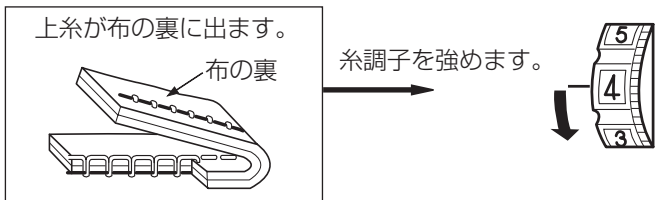
《ジグザグぬいの例》



《上糸が強すぎる場合》



《上糸が弱すぎる場合》



● 糸調子の調節

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【バランスのとれた糸調子】

直線ぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

ジグザグぬいの場合、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

布地の裏がタオル地のような場合

左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなになるのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方がまちがっています。

上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。

(「●上糸の準備 / ★上糸のかけ方」8ページ参照)

## ◎ 実用ぬい

### ● 直線ぬい

セッ トの 目安	模様		押さえ		糸調子	2~6	
				基本押さえ			

※ 模様は、ぬい目のあらかさが異なる 3 種類があります。

### ★ ぬい始め

上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れます。糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。

※ 押さえをさげて、スタート/ストップボタンを押して、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを使います。

### ★ ぬい方向の変更

ミシンを止め、針を布にさし、押さえをあげます。針をさしたまま、布をまわして方向をかえます。

### ★ ぬい終わり

返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

ミシンを止め、押さえをあげて、布を向こう側に引き出し、糸切りで糸を切ります。

### ★ 針板ガイドラインの利用

ガイドライン：布端を合わせます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

### コーナーリングガイド：

布端がガイドのところきたらミシンを止め、針を布にさし、押さえをあげ布を回転させます。

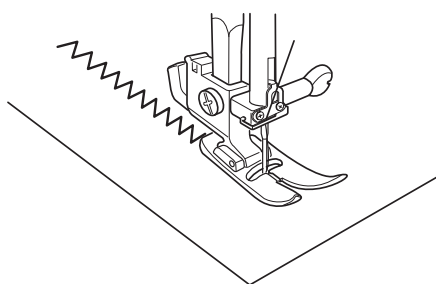
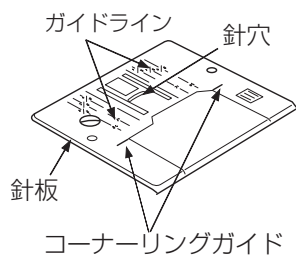
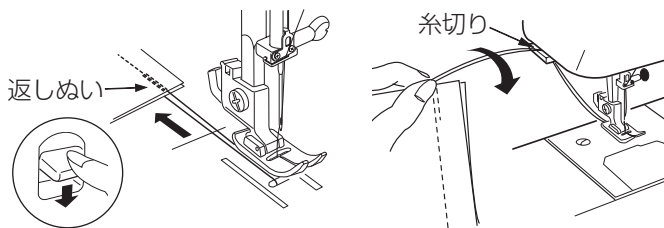
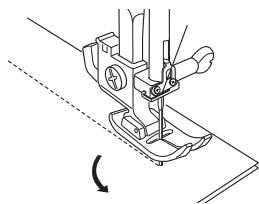
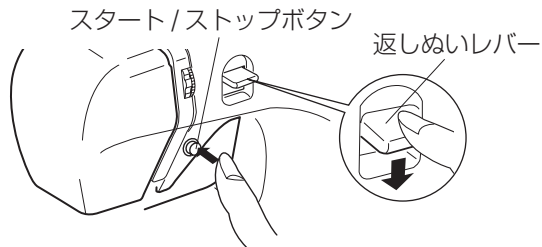
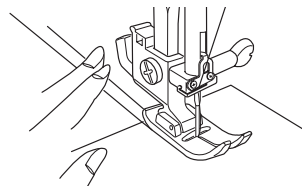
(針穴から 1.6 cm の位置です。)

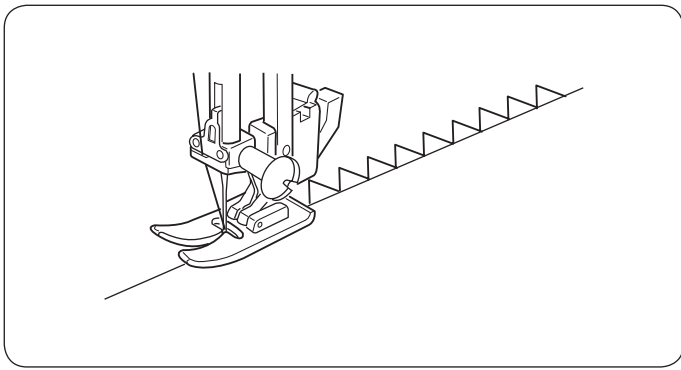
### ● ジグザグぬい

セッ トの 目安	模様		押さえ		糸調子	2~5	
		幅 (大) (大) (小)	基本押さえ				

伸縮性のある布 (ニット、ジャージー、トリコットなど) には、芯地を貼るとききれいにぬえます。

※ 模様は、ぬい目のあらかさと幅が異なる 3 種類があります。

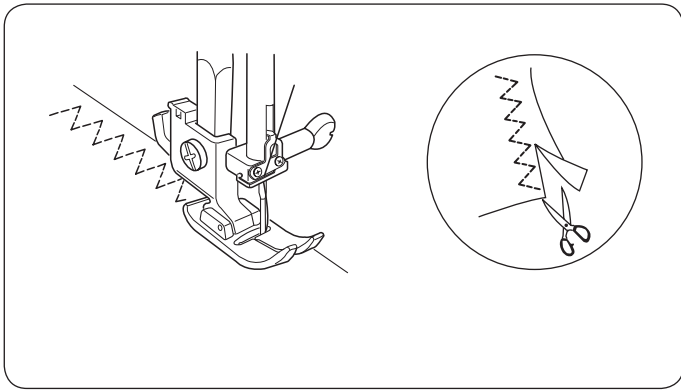




### ● ジグザグぬいのたち目かがり

セ ア の 目 安	模様		押さえ		糸調子	3~6	
	幅 (大)		基本押さえ				

模様はジグザク幅 (大) を使用します。  
布のほつれ止めとして広く利用します。

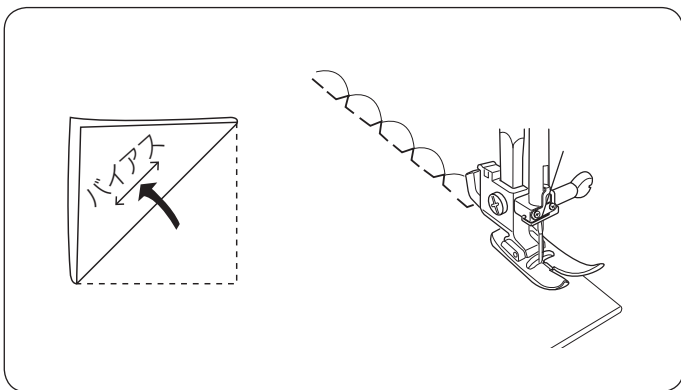


### ● トリコットぬいたち目かがり

セ ア の 目 安	模様		押さえ		糸調子	3~6	
			基本押さえ				

ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。



### ● シェルタック

セ ア の 目 安	模様		押さえ		糸調子	6~8	
			基本押さえ				

1. 布をバイアスに二つ折りにします。
2. 針が右にきたとき、布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

**【布の折り方】**

〈厚い布の場合〉                      〈うすい布、普通の布の場合〉

0.4 cm ~ 0.7 cm                      0.4 cm ~ 0.7 cm

裏                      裏

たち目かがり

**【ぬい】**

- 1.
- 2.

裏                      表

### ● まつりぬい

セ ア の 目 安	模様		押さえ		糸調子	1~4	
		または	基本押さえ				

スカートやワンピースなどのすそのまつりができます。

※ 生地と同じ色の糸を使用してください。

布を折るときは、裏を表にして図のように布を折ります。

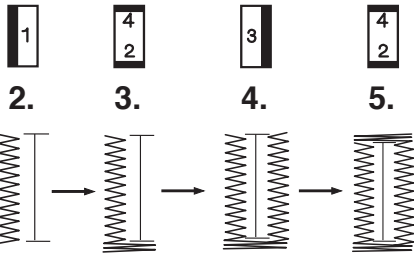
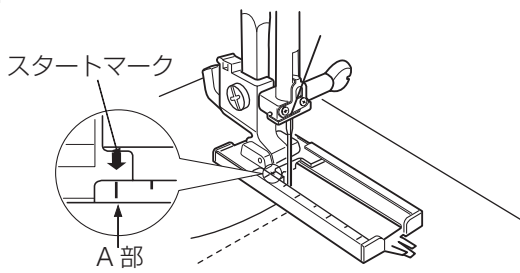
※ ほつれやすい厚い生地は、たち目かがりで布端を処理してください。

1. 針がいちばん左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置き、押さえをさげてスタートします。  
スピードコントロールつまみは「おせい」にします。
2. ぬい終わったら布を広げます。

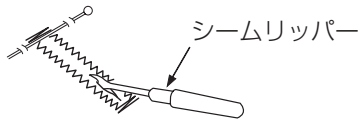
※ 模様 は、伸縮性のある布に使用してください。



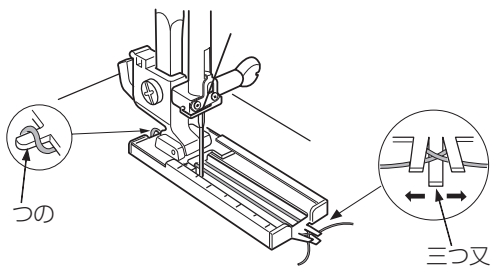
1.



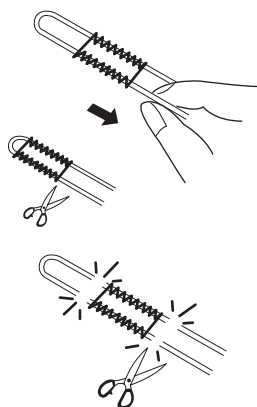
7.



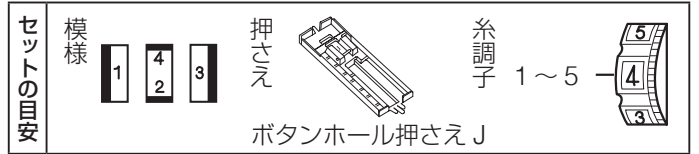
1.



3.



## ● ボタンホール



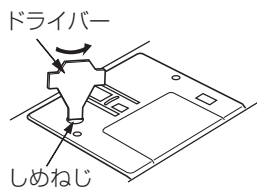
- ※ めうものと同じ布で試しぬいをしてください。
  - ※ 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。
1. 模様 **1** を選びます。上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。押さえを手前に引きスタートマークをA部に合わせます。
  2. ぬい始めの位置に針をさし、押さえをおろしてミシンをスタートし必要な長さまでぬってミシンを止めます。
  3. はずみ車をまわして針をあげ、模様 **4** を選びます。かんぬきを5針ほどぬいミシンを止めます。
  4. はずみ車をまわして針をあげ、模様 **3** を選びます。左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。
  5. はずみ車をまわして針をあげ、模様 **4** を選びます。かんぬきを5針ほどぬいます。
  6. 押さえをあげて布を引き出し、上糸と下糸を約10cm残して切ります。上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
  7. かんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかけた糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

## ★ 芯入りボタンホール

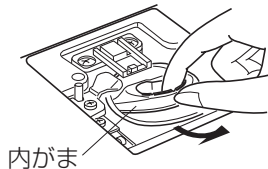
1. 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつゆのかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。
2. ボタンホール手順と同じようにぬいます。(上記「●ボタンホール」参照)
3. 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

※ 左側の芯糸が引けない場合は、前後の芯糸を切ります。

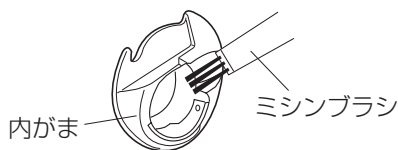
1.



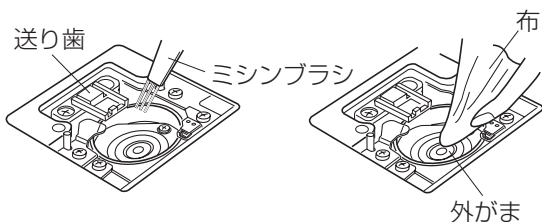
2.



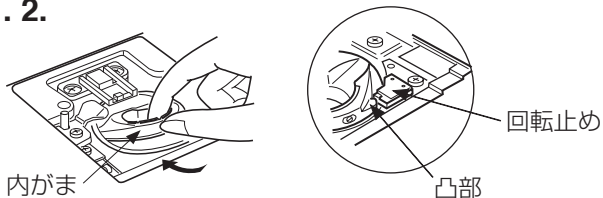
3.



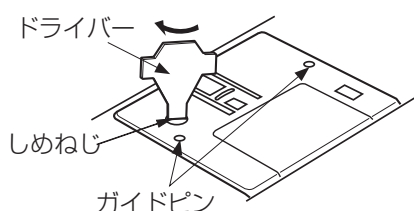
4.



1. 2.



3.



## ◎ ミシンのお手入れ

### ● かまと送り歯の掃除



- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

※ 針と押さえホルダーを外します。(4、5 ページ参照)  
角板を外してポピンを取り出します。(6 ページ参照)

1. しめねじを外し、針板を外します。
2. 内がまの手前を上へ引きながら外します。
3. 内がまをミシンブラシなどで掃除し、布切れで軽くふきます。  
※ ミシンブラシは標準付属品に含まれていません。
4. ミシンブラシや掃除機で外がまと送り歯、およびその周辺の糸くずを取り、外がまを布切れで軽くふきます。  
※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

### お願い

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

### ● 内がまと針板の組み付け

1. 内がまを差し込みます。
2. 内がまの凸部を回転止めの左側におさめるように取り付けます。  
※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。
3. ポピンを入れ、2箇所針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせます。ドライバーでしめねじをしめます。  
※ お手入れが終わったら、忘れずに、角板、押さえホルダー、押さえ、針を取り付けてください。

### ● ランプの交換



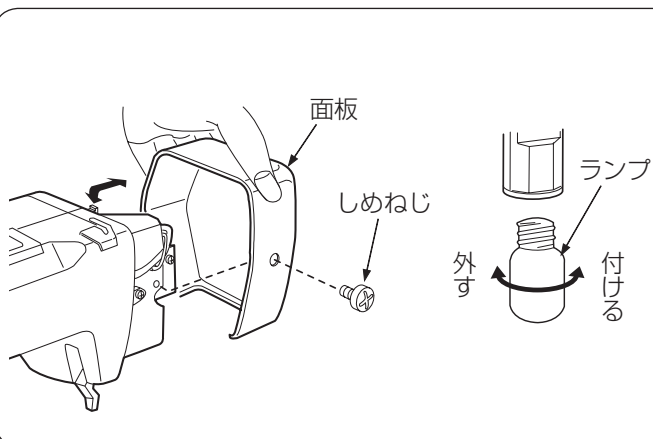
ランプを交換する場合、必ず電源スイッチを切ってください。ランプが冷えてから交換してください。

#### 【取り外し】

1. しめねじを外し、面板を外します。
2. ランプを左にまわして、外します。

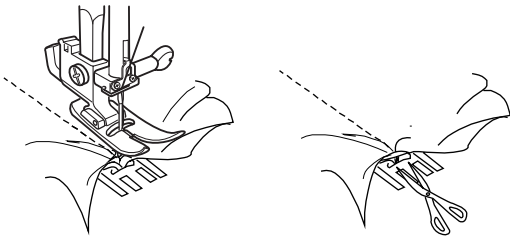

#### 【取り付け】

1. ランプを右にまわし、取り付けます。
2. 止めねじで面板を取り付けます。



● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。糸調子皿から上糸が外れている。</li> <li>2. 上糸調子が強すぎる。</li> <li>3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>4. 針の付け方がまちがっている。</li> <li>5. むい始めに、上糸、下糸を押さえの下にそろえて引いていない。</li> <li>6. むい終わったとき、布を手前に引いている。</li> <li>7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。</li> </ol>	<p>8 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>5 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下糸の通り方がまちがっている。</li> <li>2. 内がまの中にごみがたまっている。</li> <li>3. ポビンにきずがあり、回転がなめらかでない。</li> </ol>	<p>7 ページ参照</p> <p>14 ページ参照</p> <p>ポビンを交換する</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 針止めねじのしめ付けがゆるんでいる。</li> <li>3. むい終わったとき布を手前に引いている。</li> <li>4. 布に対して針が細すぎる。</li> </ol>	<p>5 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>5 ページ参照</p>
むい目かとぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 布に対して針と糸が合っていない。</li> <li>3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（オプシヨン）を使っていない。</li> <li>4. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>5. 品質の悪い針を使用している</li> </ol>	<p>5 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
むい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が合っていない。</li> <li>2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついたりしている。</li> <li>3. 布に対して針が太すぎる。</li> <li>4. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。</li> </ol>	<p>10 ページ参照</p> <p>8、7 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p> <p>芯地を貼る</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 送り歯に糸くすがたまっている。</li> </ol>	<p>14 ページ参照</p>
むい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が弱すぎる。</li> <li>2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。</li> </ol>	<p>10 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p>
むい目に下糸が出る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ポビンのセットがまちがっている。</li> <li>2. 糸こまのセットがまちがっている。</li> <li>3. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>4. 上糸調子が強すぎる。</li> </ol>	<p>7 ページ参照</p> <p>6 ページ参照</p> <p>8 ページ参照</p> <p>10 ページ参照</p>
むい始めの糸がらみ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. むい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。</li> </ol>	<p>8 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p>
うすい布、伸縮性の布が食い込む	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 布に対して針と糸が合っていない。</li> </ol>	<p>5 ページ参照</p>
ボタンホールがうまくぬえない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。</li> </ol>	<p>伸びない芯地を貼る</p>
上糸が抜ける	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. むい始めに布に針をさしていない。</li> </ol>	<p>8 ページ参照</p> <p>11 ページ参照</p>
かまに糸がからまる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. かまにキズがある。</li> <li>3. 内がまの入れ方がまちがっている。</li> </ol>	<p>8 ページ参照</p> <p>かまを交換する</p> <p>14 ページ参照</p>

調子が悪い場合	原因	直し方
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 (手順 2. の図) 	8 ページ参照 <b>【からまっている糸の取り方】</b> 1. 電源スイッチを切る。 2. 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る。 3. 針板を外す。 (14 ページ参照) 4. ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る。 (6、14 ページ参照) 5. ボビン、内がま、針板を取り付ける。 (7、14 ページ参照) 6. 上糸をかけ直す。 (8 ページ参照)
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	8 ページ参照 8 ページ参照
糸通しができない	1. 針と天びんが上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	9 ページ参照 5 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。	14 ページ参照 14 ページ参照 異常ではありません
ミシンが動かない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元にもどっていない。(糸巻状態になっている) 5. 天びん内部に糸がからんでいる。 	3 ページ参照 14 ページ参照 7 ページ参照 面板を外し (14 ページ「ランプの交換」参照)、からんでいる糸を取り除く
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向がちがう、または下糸が内がまのばねに入っていない。) 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	7 ページ参照 6 ページ参照 8 ページ参照 10 ページ参照
ボビンに下糸がうまく巻けない	1. 下糸のかけ方がまちがっている。	7 ページ参照

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 外観の細い線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。



ジャノメ HP  
FAQ ページ



ジャノメ公式  
Instagram



ジャノメ公式  
YouTube チャンネル

仕 様	
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	50 W / ランプ 12 W
外形寸法	幅 354 mm × 奥行 159 mm × 高さ 261 mm
質 量	5.5 kg (本体)
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 650 針

### 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

### 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

### 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。  
ただし、次のような場合は修理できない場合があります。
  - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。  
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

## 株式会社ジャノメ

住 所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地  
電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)  
042 - 661 - 2600

受 付 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>  
[問合せフォーム](#)をご利用ください。

